

何かに気づいたら、声を上げよう

2025年1月



図1. 見かけが同じホースリール

監査チームが新しく設置された荷積み/荷下ろしステーションを視察していた。あるチームメンバーがステーションの近くで、同じ色のホースと同じコネクタを持つ2つのホースリールを見つけた。1つには圧縮空気、もう1つは窒素と表示されていた。チームメンバーがホースの用途を尋ねた。エアホースは空気駆動工具用で、窒素は荷積み中のタンクローリーを不活性化するために使用されていた。

そのチームメンバーは、これらの見かけが同じホースが逆に接続されたら、窒素で不活性化されるはずのタンクローリーが可燃性範囲に入る可能性があることを指摘した。設計レビューや運転前の安全レビュー(PS SR)でも、この危険性に気付いた者はいなかった。変更管理(MOC)が適用されて見直された状況になるまで、このエアホースは使用禁止になった。もう一つの危険性もあった。誰かが窒素を空気駆動工具に接続した場合、酸素欠乏雰囲気さらされて意識を失う可能性があった。

これは、誰かが簡単な質問をすることで、潜在的な2つの重大事故の防止に繋がったのかもしれない例である。何かが間違っているように思われるときに、声を上げる必要があることの重要性を示している。

知っていますか

- 微かな兆候は何かがおかしいことを示している。図1では、微かな兆候は見かけが同じホースであり、ホースを間違えて使用する可能性があることを示している。
- 通常とは異なる音がする機器や振動している機器は、いずれも何か問題があり、注意が必要であることを示す微かな兆候である。
- 微かな兆候が、無視できない機器の故障や漏れなど、大きな問題に発展することはよくある。
- 多くの重大事故では、事故前には見過ごされていた微かな兆候や警告サインがあった。事故の後になって、これらの兆候があったことが明らかになった。
- 微かな兆候に気付いたら他の人にも知らせること。状況を確認して問題ないと判る方が、重大な事態ではないことを祈っているよりもよい。
- 人々が違いに気付いたとしても、その違いを、確認し修正出来る人が認識して初めて、その危険性は解決される。
- わかりにくい手順書もまた微かな兆候である。経験豊富なオペレーターには問題なくとも、新人の従業員を混乱させるかもしれない。

あなたにできること

- 何かが正しくないように気づいたら、エリアの管理者に知らせること。彼らは適切なリソースを提供して、この状況を調査し、必要に応じて修理をすることができる。
- 巡回や現場点検の際には、前回の点検以降の変化に注意すること。それらをメモしておき、質問すること。
- 混乱を招く手順書は修正しなければならない。図や写真を追加することで手順書が改善されるならば、それを管理者に提案すること。
- 現場でよくありそうな問題点に注意すること。開いた電気ボックス、プラグのないサンプルノズル、読み取り不可能な計器などはすべて、起こり得る事故を防ぐために修正すべきである。

何かおかしいと思ったら尋ねること！ 命に係わることもかもしれない！